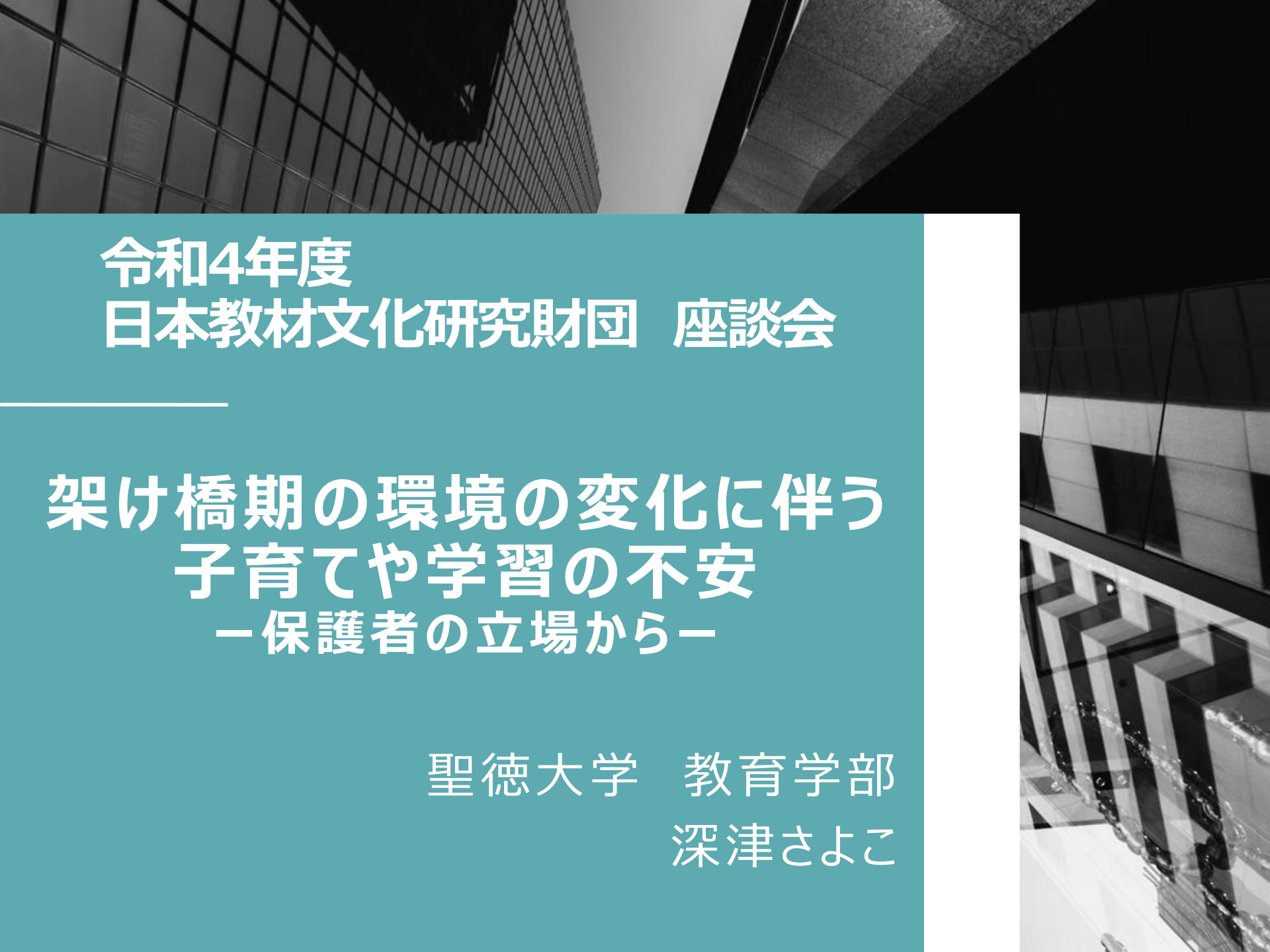

第10回座談会

発表資料

【令和5年2月11日 オンライン開催】

公益財団法人 日本教材文化研究財団

※公開資料の内容やテキスト、画像等の無断転載・無断使用を固く禁じます。



令和4年度
日本教材文化研究財団 座談会

架け橋期の環境の変化に伴う
子育てや学習の不安
ー保護者の立場からー

聖徳大学 教育学部
深津さよこ

幼児教育架け橋期プログラム ー課題として提示された事項ー

①学校種・施設類型を 超えての連携・協働

- ・交流行事等に限定
- ・幼児教育への理解不足

②子供個々や家庭環境に 応じた対応

- ・特別な配慮が必要な子供の増加
- ・乳幼児期の経験から生まれる格差



架け橋期を経験し、不安だったことを書き出してみると・・・

主体であり、保護者にとっては愛着の対象。困った時に助けてくれる存在・・・

の先生は、相談する機会をもつことにこそ

などの機会がどれほど重要だったのか再考

本当なのか、よくわからない。

・保育園入園よりも、中学校入学よりも、

後の生活が不透明すぎるから。

・子育て支援という概念が小学校入学と同

様をしてくれない。字量はしてくれる。例えば、

室や図書室を提供してくれるが、教師の見守

てる。字量は、側に指導員がいてくれたり、迎

くれる。

・保護者会やPTAの時間

発熱時の連絡も、園のよう

・登下校時の不安。春休み

される。練習しても、不安は

暗い中、帰らなければなら

・慣らし保育ならぬ、慣ら

ば、なんとなく生活のイメ

・同じ敷地の幼小の強さ

ている。保護者も子ども

入する機会が違い過ぎ

聞いたこと

・保護者会が平日 14 時から始まる→途中参加

・PTA が平日午前中に開かれる→全欠席

・発熱時の呼び出しが突然来る→祖父母動員

・わからないことを担任に聞けないのでママ友に聞かない。(学校の代表番号に電話して
も、探し回る雰囲気。連絡帳に書く、子供に見られる。オンラインで知らせると、見逃しが
多い印象。)

・小学校の先生は 1 年勤務しただけで、異動や退職が多い印象。年度途中の担任交代
や次年度に知っている教員が不在の場合も。

架け橋期を 2 回体験して感じたこと

1 回目：不安との闘い、ママ友と情報交換し乗り越える

2 回目：コロナ 1 年目。授業はすべてオンラインで教室や子供の様子がわかる。先生の人
柄もわかる。安心する。

なかった：職業別の配慮はない、共働きか否かの除
役動など子供が通った環境のイメージの材料になっていた。

・新 1 年生保護者説明会では、一方的に小学校のルールや態度などを説明された。「キヤ

クターの文具は不可です」など。PTA の役員の話なども不安でしかない。

・運動会などで「小 1 は赤ちゃん」だとわかりがっかりする。年長としてプライドをもって活躍し

ていたのに、小 1 になると、赤ちゃん扱いされる。運動会の構成、内容も 4 歳児レベルで、

小学校の先生はなぜ、ここまでレベルを下すのかわからない。

・保育所に 3/31 まで登園、4/1 から字量にフル参加、4/6 から入学式(短い小学校生

活+字量) この流れが意味不明

・園の「先生」は小学校の「先生」のポジションが違い過ぎる。園の「先生」は

【就学前に不安・負担と感じた二つの側面】

①保護者としての不安・負担(生活スタイルの変化、見通しのなさ)

②子供に関する不安(適応、安全)

	①保護者としての不安・負担	②子供に関する不安
学習	家庭学習の見通し 持ち物の準備	学習スタイルの変化 適応 持ち物の管理
人間関係	担任 ママ友 学童	担任 同級生
生活	毎日の登校 下校時間の変化 学童との連携 習い事などのマネジメント 夏休みの過ごし方 保護者会やPTAの時間設定	小学校→学童→帰宅→宿題などの流れの実施 早寝早起き
危機管理	登下校の事故 不審者対策	自宅の鍵の管理

→幼児教育施設が解決してくれた具体的事柄は見当たらないが、精神的支えが大きかった。(保護者会での懇談、担任の経験談など)

【就学後に不安・負担と感じた二つの側面】 ※およそ1学期半ば頃

- ①保護者としての不安・負担(~~生活スタイルの変化、見通しのなさ~~)
 ②子供に関する不安(~~適応、安全~~)

	①保護者としての不安・負担	②子供に関する不安
学習	家庭学習の見通し 持ち物の準備	学習スタイルの変化 適応 持ち物の管理
人間関係	担任 ママ友 学童	担任 同級生
生活	毎日の登校 下校時間の変化 学童との連携 習い事などのマネージメント 夏休みの過ごし方 保護者会やPTAの時間設定 担任との接触機会の減少	小学校→学童→帰宅→宿題な どの流れの実施 早寝早起き
危機管理	登下校の事故 不審者対策	友達との約束 自宅の鍵の管理

→幼児教育施設は「家庭中心」であったが、小学校は「小学校中心」とであると認識

幼児教育架け橋期プログラム ー課題として提示された事項ー

①学校種・施設類型を 超えての連携・協働

・幼児教育施設と小学校だけではなく、「子育て支援」である放課後児童健全育成事業(学童クラブ)も含め、一体的な支援が必要。(厚労省 登録児童数の推移より)

平成30年	1,234,366
令和元年	1,299,307
令和2年	1,311,008
令和3年	1,348,275
令和4年	1,392,158

②子供個々や家庭環境に 応じた対応

・時系列に沿って、保護者が展望をもてる支援(一前・秋田,2012)

・時期による不安・負担の内容の変化への対応

・1学期終了後に4割の保護者が「慣れた」と感じる(滝口,2016)

・就労している保護者への配慮？
共存？

引用文献

文部科学省(2022)幼保小の架け橋プログラム 審議経過報告

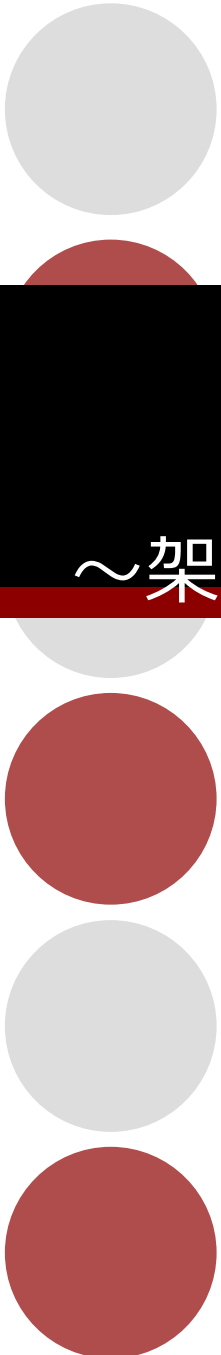
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/1258019_00002.htm (2023/2/9閲覧)

厚生労働省(2022)放課後児童健全育成事業について

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/kosodate/houkago/houkago.html (2023/2/9閲覧)

一前春子・秋田喜代美(2012)地方自治体の接続期カリキュラムにおける接続期とカリキュラムの比較, 国際幼児教育研究, 20巻.

滝口圭子(2018)幼児教育と小学校教育の接続期に求められる支援の縦断的
追求ー幼小の段差の克服の過程, 科学研究費助成事業研究成果報告書(基盤
研究(C)(一般), 課題番号26350926)



日本教材文化財団 第10回座談会

2023年2月11日（土）

幼児期から小学校期にかけての
『保護者との連携』を考える

～架け橋期における保育・教育の質の向上に向けて～

田 代 幸 代 （共立女子大学）

* 自己紹介

- ◆国公立・私立幼稚園で、教諭・管理職（園長・副園長）として勤務しました。
- ◆この経験を活かして、子どもと保育者が共に育つ実践を試行錯誤しています。
- ◆保育記録・遊び理解・環境の工夫などをキーワードに保育者のステップアップを支えたい！と研修・研究活動しています。
- ◆養成校においては、「生涯学び続ける保育者」を育てるために奮闘中です！

◆実践の場で（国公立幼稚園）



←東京都文京区立湯島幼稚園
都会の真ん中、
ビルの谷間の幼稚園

↓東京学芸大学附属幼稚園
武蔵野の緑豊かな環境の幼稚園



◆実践の場で（私立幼稚園）



立教女学院短期大学
附属幼稚園 天使園



◆養成校で

共立女子大学
家政学部児童学科

←学科附設
「発達相談・支援センター」

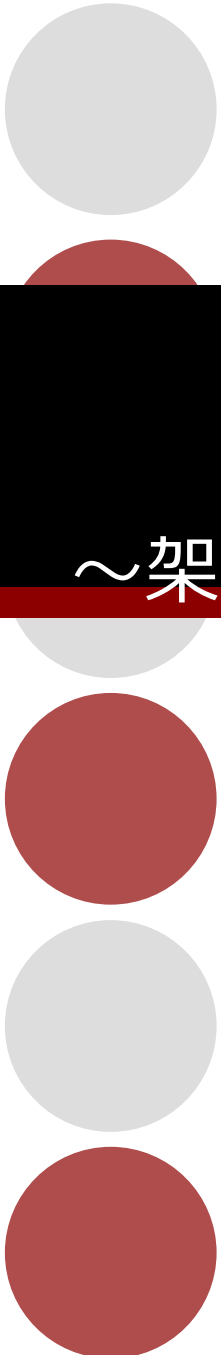


大学 家政学部
児童学科 | 定員 | 150名

(入試方式)

一般 定員15名 P.121～	一般 2月 P.122～	一般 3月 P.123～	センター 利用可能 P.125～
AO P.127～	推薦 P.128～	特別 選抜 P.129～	





日本教材文化財団 第10回座談会

2023年2月11日（土）

幼児期から小学校期にかけての
『保護者との連携』を考える

～架け橋期における保育・教育の質の向上に向けて～

田 代 幸 代 （共立女子大学）

テーマ：

幼稚園ではどのように保護者連携、
子育て支援をしているか
—架け橋期に焦点を当てて—

テーマ：

幼稚園ではどのように保護者連携、
子育て支援をしているか
— 架け橋期に焦点を当てて —

○5歳児～1年生

・5歳児の育ちは、3歳児・4歳児の積み重ね

○子どもにとって初めての「社会」

- ・園は、子ども・保護者・保育者が共に育つ場所
- ・子どもの成長する姿を示すこと

* お話ししたいこと

1. 遊びを通じた学びが小学校以降の生活や学習の基盤となること
2. 幼児期の教育は保護者との連携が基盤となること

(1) 自分の好きなモノを見つける



3歳児4月

(1) 自分の好きなモノを見つける

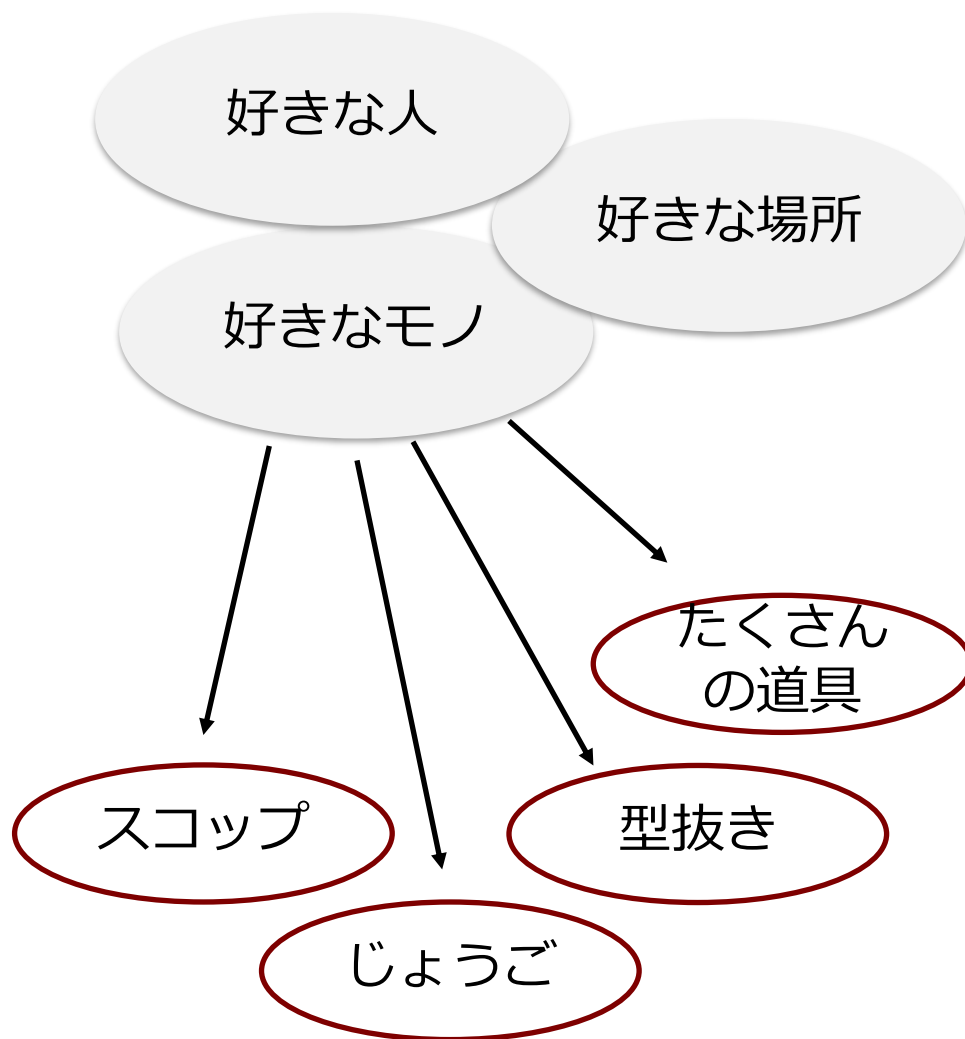


3歳児4月

新しい環境に慣れること

- 教師との信頼関係
- 安定・安心した心身
- 主体的に動き出す
- 身近な環境と
かかわっていく

一人一人のやり方で、環境との関わり方や意味に気づき、これらを取り込もうとして、試行錯誤したり、考えたりするようになる



(2) 同じ場で遊び、友達と関わる



3 歳児 11月

◆ 保育者の記録から

転がせるようにコースを設定しておいた。目についた幼児が入れ代わり関わる。ドングリ以外にもカリンやボール、スコップを滑らせていた。コースを新しく作り始める幼児の姿になにをしたいか感じ取り、一緒につなげていく姿も少し見られた。重いものを転がすことでコースが壊れ、それで遊びが終わっていた。

幼児が経験していること：

○いろいろなものを転がすことを面白がる。

教師が用意する環境：

- ・ 転がせるものをいくつか用意する。
- ・ 壊れないコースをひとつ用意する。
- ・ 自分でも作れるように槌を準備する。







面白そうなことを繰り返すこと

- 何度も繰り返す
- 自分なりに作ったり動いたりする
- 同じ場にいる他児と関わる
- 様々な気持ちに気付いていく

面白そうな遊びの場を共有することで、そこで自分とは違う存在の他児に気付いていく

面白い！

楽しい！

もう一回！

あれ？

変だな…

こまった

いや！

(3) 友だちと遊びを進めながら 考えたり工夫したりする



5 歳児 11月

友だちと遊びを進めながら 考えたり工夫したりする



知識・技能の基礎

<領域:言葉>の窓口から

- ・自分の思いや考えを言葉で伝える。
- ・友達の思いや考えを聞きながら、遊びをすすめる。

思考力・判断力・表現力等の基礎

<領域:環境>の窓口から

- ・ビー玉がころがるコースの仕組みをいろいろ考えて、工夫して作る。
- ・身の回りにある道具や空き箱の形や特徴を活かして遊びに取り入れる。

<領域:人間関係>の窓口から

- ・友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。
- ・ビー玉ころがしのコースを完成させることを目的に、工夫したり協力したりする。
- ・転がして遊ぶときに、順番を考えたり守ったりする。

学びに向かう力・人間性

友だちと遊びの目的を共有すること

- 身近なモノの特性を活用して遊ぶ
- 友だちと協同して遊びを進める
- 困難や葛藤・いざこざを乗り越える

環境との関わり方や意味を取り込み、試行錯誤したり、考えたりしながら、友だちと共通の目的に向けて粘り強く取り組む

規則性・
法則性

全体と部分

比較・分類

時系列・
因果関係

仮説・
確認

人との
関係性

粘り強さ

◆ 認知的な能力と非認知的な能力 の調査研究

認知的な能力

国立教育政策研究所

「子供の論理的な思考力の
育成に係る調査研究」2013

- ①規則性・法則性
- ②比較・分類
- ③全体と部分
- ④時系列・因果関係
- ⑤仮説・確認
- ⑥人との関係性

非認知的な能力

文部科学省委託研究

「幼児期の非認知的な能力の
発達をとらえる研究」2016

- 「挑戦・試す・試行」
- 「自発性・能動性・主体性」
- 「安定・安心」
- 「葛藤」「粘り強さ」
- 「つながる・連帯・一体感」
- 「共同・協同性」など

* お話ししたいこと

1. 遊びを通じた学びが小学校以降の生活や学習の基盤となること
2. 幼児期の教育は保護者との連携が基盤となること

◆家庭・地域と幼稚園の機能と役割

家庭・地域

連携

幼稚園

- 愛情としつけを通して、心の基盤を形成する
- 地域の様々な人との交流が、豊かな体験となる
- 家庭で体験できない社会・文化・自然体験の場となる
- 主体的に環境にかかわり遊びを通して学ぶ
- 集団のなかで自己発揮し自己抑制・調整する

質の高い幼児教育を実践し、遊びを通した学びを保護者と共有していくことが重要！

◆保護者の悩み・関わりの難しさ

家庭・地域

- 親子の関わり
- 家族や地域の人間関係
- 愛情と過保護・干渉
- しつけや教育をめぐる多様な価値観

幼稚園

- 家庭とは異なる姿がある
- 集団の中での個性
(他児との比較)
- 興味や関心・人間関係の広がりと深まり
- 小学校への接続・進学

架け橋期の子どもの「学び」は、 最高に面白い！



栃木県幼児教育センター長 高木 恵美



◆小学校学習指導要領解説 生活編

特に入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと。
(スタートカリキュラム)

- ✦1年担任だけでなく、全校体制で実施するもの
- ✦保護者や幼稚園等とも共有するもの



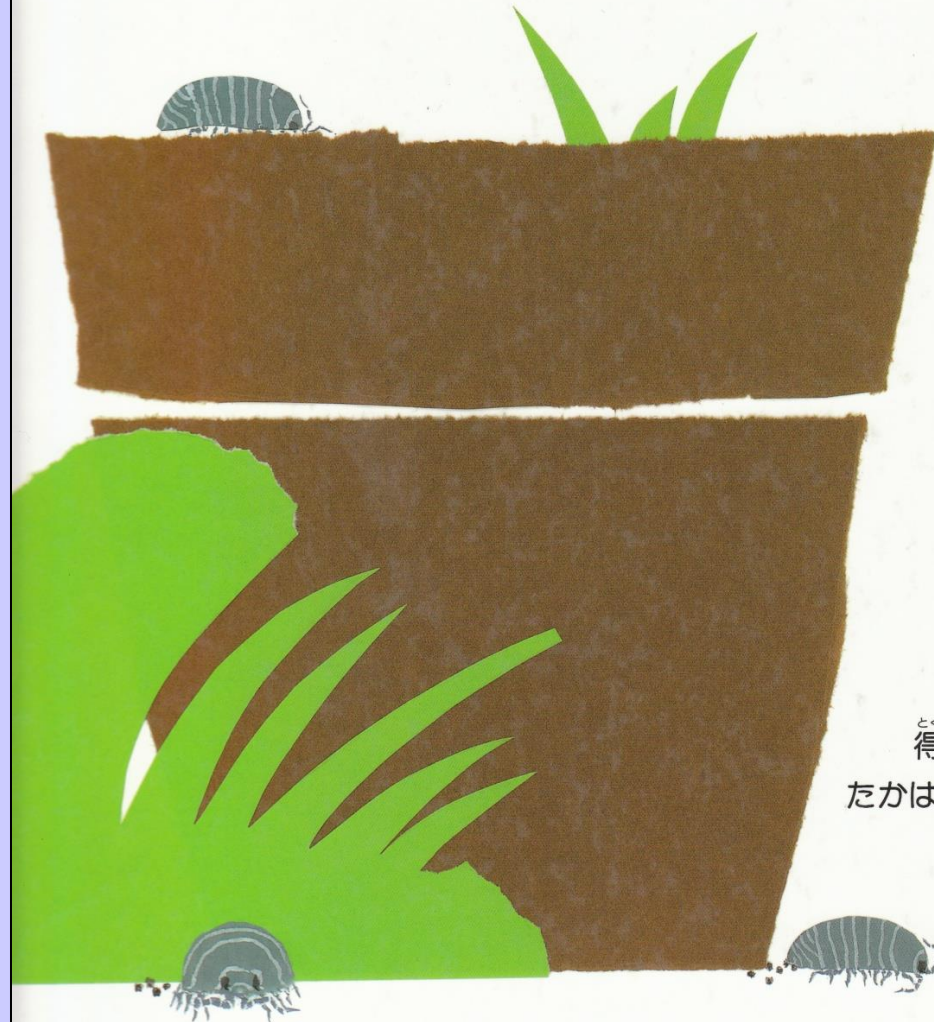
保護者と協働して、子どもの学びを支える

◆事例1◆

1年生 初夏の出来事です。

学校に慣れてきた子どもたちは、
休み時間ごとに、
てんとう虫、ダンゴムシ、
たんぽぽ…等をお土産に
教室に戻ってきます。

ぼく、だんごむし



とく だ ゆき ひさ
得田之久 ぶん
たかはし きよし え

「ぼく、だんごむし」
得田 之久 ぶん
たかはし きよし え

かがくのとも傑作集



毎日少しずつダンゴムシが増え、
ダンゴムシの住環境が整い、
数十匹いるダンゴムシに名前がつき
いつの間にか、ダンゴムシ御殿が
出来上がりました。



ダンゴムシを含めた学級経営が
充実し始めたある朝・・・



**暑かったから、
水に入れてあげようと
思ったんだ。**

ほんとはね、ぼくたちは こんちゅうじゃなくて、
かにや えびの なかまなんだ。

そのせいかどうか わからないけど、

ぼくたちは みずのなかに おちても

すこしの あいだだったたら へいきなんだ。

3秒ぐらいだよ。
それより長いと
死んじゃうよ。

10秒くらいなら
ぼくも息を
止められる。

でもエビとか
カニはもっと
長く潜ってる。

10分。だって、
休み時間、短いもん。

1分くらい。
1分間スピーチ
やってるでしょ？

ぼくのお母さんは、
「すこし」って言って、
いっぱい電話してる。

1週間も少しっぽい。
あと少しでクリスマス
って言うから。

1分間スピーチって
ぼくは長いと思う。

「すこし」って、どれくらい？

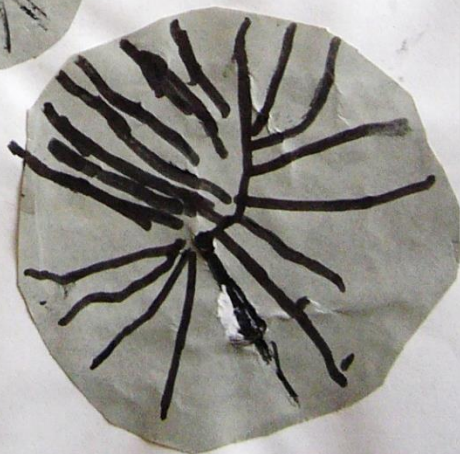


子どもたちは、
それまでの経験や
幼稚園や保育所で身に付けた知識を
フル活用し、
実生活と「すこし」を結びつけ、
一生懸命、考え、思いを言葉にしました。





だ"んご"もしいは
さめるとまるく
な"あ"もしろしです。

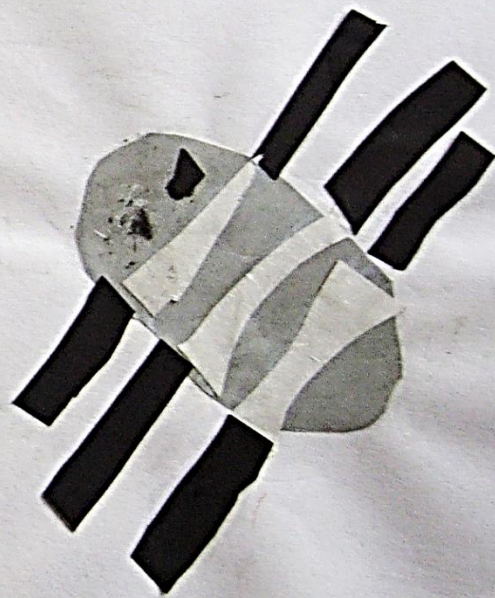


た"んご"もしいは
さめるとまるく
な"あ"もしろしです。

あらたさんくたさんたかほしさん
わたしはさいしよは
だんごむしがきらいでた
でもだんごむしのほんを
みてすきになりました
た。

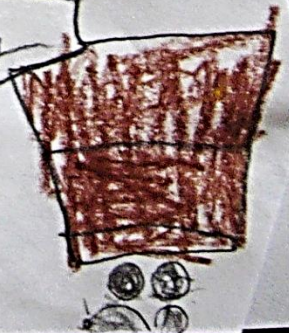
どのいけもみじより

1ねんくみ
どのいけもみじ





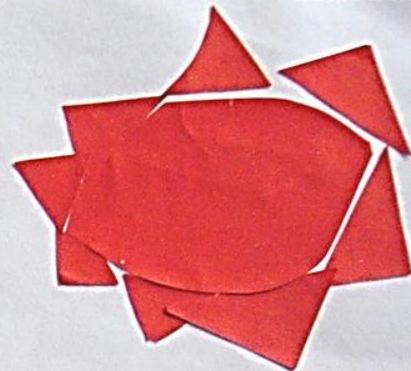
きのうは、てがみかくが
読みかとうぎいよ
わたし、一つうれいこと
あります。それは、はじめて
かえるとんぼをさわれ
たからでわかれ、しもかたさ
たをみならって、き
やまたれおき





ひらたんたちへ
わたしは、かまきりか"だいすき
です。かまきりのあかちゃん
と、7にのせたことがあります。
ぜんぜんいたくなが"たな
まみちより





（ま）くはあ、あきくなったら
まんが^{まんが}か^かになっ
虫^虫にかんけいするまんが^{まんが}を
かきたいです。つぎのかかくの
ともが^{ともが}たのしみです。
はかくで^{はかくで}きるといいです。あ、りこより



ひらたさんたちへ
おてか^みを
か^えしてくださー

どうもあッが^んどうせ^いま。
ぼくたちもべ^んきよ^うが^ん
いばッますからひらたさん
たちもが^んいば^ってください。
さき^にい^ちより

れから
い^ちより
い^ちより
い^ちより

その後、
小さな科学者が実験を繰り返し、
小さな生物学者が未知の生物を研究し、
小さな作家が絵本を作り、
小さな読書家がたくさんの本を読み、

何よりも、
子どもたちが
言葉を大切に使うようになりました。



一連のことを保護者と共有

時間

空間

仲間

子どもに委ねる

架け橋期に大切なこと



豊かな学びを支えているのは・・・

幼児期に育まれた力
家庭や園での豊かな経験

◆事例2◆

1年生 国語「大きなかぶ」から

音読の宿題を出した翌日、えりちゃんの母親から、
連絡帳で、こんな相談が・・・



宿題をやっている途中で、
「ママ、かぶをまだ抜いていないのに、
どうして『あまい』ってわかるの？」

と娘に質問されたのですが、私には、
答えられませんでした。

先生、説明してあげてください。
お願いします。

おじいさんが かぶの たねを まきました。

「あまい あまい

「おおきな おみ

どうして 食べてないのに
「あまい」ってわかるの？

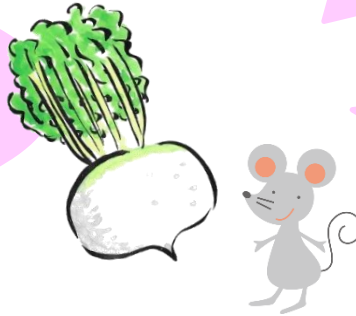
あまい げんきのよい

とてつもなく おおきい かぶが できました。

夜中に、
ネズミがこっそり
かじったんだよ。

ちょっと見えてるところを
おじいさんが
味見したんじゃない？

これは、本だから
書いた人が想像して、
書いたただけだよ。



おじいさんが
「あまいかぶになれ」って
言っていたから
願いがかなったってこと。

きっと、
おじいさんがまいたのが
「あまいかぶ」の種だった。

種の袋に書いて
あったんだよ。

どうして「あまい」って、わかるの？

えりちゃんのお母さんが困ってるんだ。



保護者からの発信を共有

朝顔栽培
(生活科)

文字が
読める実感
(国語)

宿題の
意義

「学び」の意味づけと拡散

架け橋期に大切なこと



豊かな学びを支えているのは・・・

体験的な活動

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

◆ 管理職の先生へお願いしていること

✧ 子どものために**3時間3分**だけ時間をさいてください。

3 時間

校長先生は「保育」を、園長先生は「授業_(生活科)」を
職員2名を連れて見にいきませんか？

3 分

卒園式の決まり文句に

「みなさんは年長さんで、何でもできたよね。園長先生は、
そのことを校長先生にお話してあります！ 張り切って
入学式に行ってくださいね。」

入学式の決まり文句に

「校長先生は知っています！みなさんは年長さんで
『何でもできたこと』『何でもやろうとしていたこと』を！」